



## 新型コロナウイルス感染症の中メンタルヘルスも意識しましょう

生活支援看護学領域 精神看護学分野 教授 田嶋 長子

白鳥会の会員の皆様、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に明け暮れた2020年、さらに感染症者の増加がとどまらない2021年の幕開けですが、いかがお過ごしでしょうか。医療施設、保健機関、福祉施設にお勤めの皆様は、自らの感染予防に努めつつ、地域や病床の皆様の健康を守る責務を担っており、その負担やストレスは如何ばかりかと推察いたします。同時に、そのストレスに耐えつつ黙々とその重責を果たされている皆様に、敬意を表します。

2020年の1月上旬に、中華人民共和国の武漢において、「原因不明肺炎の発生」が報道され、中旬には日本で初めての感染者の確認、下旬には国内での人から人への初めての感染が確認され、2月初めには横浜港に入港したクルーズ船で、3,700人以上の乗船者のうち700人以上の感染者が確認されるという未曾有のクラスターが発生しました。その後はあっという間に全国に感染が拡大し、2月末には、全国の小中学校に対して3月2日からの臨時休校要請が出されました。またこの時期、感染予防に必要なマスクや消毒剤の需要の急増に対して供給が追い付かず、医療機関でも必要物品が不足する事態も生じました。そして4月初めには、重篤な症例の発症頻度が高いこと、感染経路が特定できない感染者数の急速な増加、医療提供体制の逼迫を理由に、1か月間を目安とする緊急事態宣言が発出され、不要不急の外出を控え、テレワークの実施、オンライン学習の実施、外出時にもマスク着用と3密を避けることが要請されました。感染者数の減少が見られた5月末には、すべての地域で緊急事態宣言は解除されましたが、世界での感染の継続を受け、東京開催が予定されていたオリンピックは次年度に延期され、国内での様々な競技大会やイベントもほとんど中止され、無観客や形態を変更しての開催やオンラインでの発信となりました。7月から8月にかけて第2波の感染拡大が見られたのち、少し感染者数が減少したかに見えましたが、11月からはまた感染者数が増加し、12月末には全国での1日の新規感染者数が6,000人を超え、2021年1月初めには、首都圏を対象とする緊急事態宣言が再発出されました。大阪府でも1日の感染者数が600人を超え、緊急事態宣言を国に要請する状況となっております。全国の累積感染者数は28万人、重症患者数も800人を超え、コロナ重症患者を受け入れておられる病床数も限界に近いとされています。

このように医療が逼迫する中で、患者と直接触れ合いながら日々ケアを届けている看護職の皆様は、職場で通常

以上の感染予防を求められ、私生活でも自らが感染源とならないための感染予防に努める生活が継続しており、緊張が解ける間がないのではないかと推察いたします。普段なら、友人との何気ない会話や食事、通勤時に触れる四季の風景や空気の変化、旅行や観劇などでストレスが消化されていますが、現在はそのような機会を奪われています。このような状況に長期間晒されると、緊張していると感じなくなったり、抵抗力も低下し、心身ともに体調を崩しやすくなります。皆様は自らの体温測定等も行われていると思いますので、身体的な不調には気づきやすいのですが、心の不調には気づきにくいと思われます。普段は楽しめていた事情や番組などに関心が向かなくなったり、楽しくなくなったりしているようなら気を付けていただきたいと思います。軽症のうつ状態になりつつあるかもしれません。軽症のうつ状態とは、日常生活において生産性は落ちてはいるものの、なんとか休まず続けられる程度のものを指します。しかしこれを放置していると、仕事や家庭などに問題を生じてくることもあります。睡眠を十分とること、あるいは日常を離れられる、そして少し生産的な気分転換になることを見つけて楽しむことが効果的と思われます。もし本格的なうつ状態に陥りかけている場合は、少しでも早くに気づいて対処するために、参考になればと思い、自己診断の手がかりを示します。

診断基準1：①憂うつ、気分の落ち込みがある、②興味や喜びの喪失のどちらか1つがある場合は軽症のうつ状態。

診断基準2：①食欲の異常、②睡眠の異常、③そわそわするまたは体が重い、④疲れやすい、⑤自分を責める、⑥思考力・集中力の低下、⑦死にたいと思う、のうち5つ以上の症状が、ほとんど一日中2週間以上続き、仕事や家庭などに何らかの問題が生じている場合はうつ病と診断されます。診断基準2に該当される場合は、医療機関に相談されますようお願いいたします。

私は2012年から大阪府立大学に赴任し、短い間でしたが精神看護学を担当させていただきました。赴任直後に看護学類で計画していた新卒看護師に対するホームカミングデイを、白鳥会のご協力で開催できたことに大変感謝しております。参加者は数十人でしたが、退職を考えていた新卒生に、継続への支援ができたことが印象に残っています。白鳥会の皆様が、心身の健康を維持しつつ、この非常事態を乗り越えられることをお祈りしています。



## 会長挨拶

看護学部6期生・大学院博士前期課程13期生 浅井 克仁

同窓生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で生活様式の変容を余儀なくされたことと存じます。同窓生の皆さまは医療に従事されている方が多いことから、このような危機的状況において大変ご尽力いただいていることと存じます。心より御礼申し上げます。

同窓会活動においても、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、あらゆる活動を中止することとなり、同窓会役員はオンラインで会議を行いながら、今後の活動について協議しております。特に今年度は白鳥会として第17回目の総会を予定しておりましたが、来年度へと延期をすることとなりました。来年度の開催にあたって、昨今の状況から総会の開催方法を検討する必要性も生じる可能性がございます。大阪府立大学との統合を機に、同窓会のあり方も変更することとなるため、白鳥会としては次回が最後の総

会となるかもしれません。どのような形での総会になるか、私たちも見通しが立っておりませんが、少しでも多くの同窓生の方にご参加いただけるよう、準備を進めて参ります。皆さまのご参加をお待ちしております。

また、先にも述べました大阪府立大学との統合の件ですが、両大学の同窓会との意見交換が始まりました。まだまだ検討中の段階ではありますが、今後も同窓生や在学生の皆さまにとって憩いの場となるような同窓会にしていきたいと考えております。今後の同窓会のあり方については、詳細が決まりましたら、改めてご報告させていただきます。

新型コロナウイルス感染症や大学統合など、大きな課題を抱えている状況ではございますが、同窓生の皆さまのお力添えをいただきながら、乗り越えていきたいと考えております。その分、同窓生や在学生の皆さまの活動のサポートに貢献していきたい所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



## 2020年度に就任された先生方からのご挨拶



基礎看護学領域  
看護情報学分野

准教授 園田 奈央

2020年4月に基礎看護学領域看護情報学分野に着任いたしました園田奈央と申します。

集中治療室で日々働く中で、慢性疾患の増悪や重篤な合併症を発症した患者さんにたくさん出会い、それらの予防の大切さを再認識しました。そのことをきっかけに、大学院へと進学し、現在は糖尿病の合併症予防、慢性疾患を持ちながら働く人の重症化予防の研究を行っています。また、博士後期課程在学中に看護工学について学ぶ機会もあり、看護だけでなく工学や情報学など様々な分野が協働することで看護分野における様々な課題を解決できるのではないかと考え、ICTを活用した減災対策や減災行動支援の研究、入院患者さんの音環境の改善の研究にも取り組んでいます。

看護情報学は新しい分野ですが、情報化が進む保健医療分野において重要性が増してきています。情報を適切に取り扱えることはもちろん、それらを活用した臨床実践ができる人材の育成は非常に重要であり、様々な場で活躍できる人材の育成に貢献したいと考えています。また、看護情報学は、様々な看護分野を対象にしており、研究内容の幅が広いことが魅力であると考えています。学生さんには看護に加えて、研究の魅力や重要性も伝えていきたいと思ひます。

白鳥会の皆様には、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



生活支援看護学領域  
在宅看護学分野

准教授 岡野 明美

コロナ禍の中、医療・保健等関係機関で日々活動されている白鳥会の皆様に敬意をお伝えしたく思ひます。

2020年4月に生活支援看護学領域在宅看護学分野に着任いたしました岡野明美と申します。私は看護師、中核市の保健師、在宅分野での保健師を経て大学の教員となりました。働くプロセスの中で、実践を積み重ねていくことの大変さと大切さ、実践を表現することの難しさを感じ、大学院に大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程（CNSコース）に進学しました。そこで、実践とは何かについて多角的に学び、実践の場に戻りました。CNSのタイトル取得後、自分の中にある看護実践への責任とパッションは確実に高まり、大きな核となりました。看護理論やモデルを使った事例分析、カンファレンスや地域支援の展開など実践を突き進む原動力になりました。数年かけてケアチーム力、地域全体の支援活動が少しではありますが変化してきた手ごたえを感じました。しかし、実践をまとめることはできても多くの人々に示す力にはいたらず、同大学博士後期課程に進学しました。文献を読む、概念分析を行う、研究手法を学ぶ、研究計画書を書く、論文を書くなど論文完成までのプロセスを学びました。思考の訓練を繰り返し、探求する力や構築する力などが以前よりは備わったように思ひ、看護学の発展への責任感が高まりました。これらの学びの源である大阪府立大学大学院看護学研究科に感謝と恩返しのお念をもって、勤めさせていただきたいと思ひます。

地域包括ケアシステム構築が喫緊の課題である中、在宅看護は重要な位置を担うものと予測されます。実践の科学をどのように示していくのか自分にとっての大きな課題です。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。

# 第17回同窓会総会のご案内

大阪府立大学看護学系同窓会(白鳥会)

## 2021 9/11 Sat.

### ホテルグランヴィア大阪

20階 鳳凰/名庭の間

〒530-0001 大阪市北区梅田3丁目1番1号

Tel 06-6344-1235(代)

### 10:00 - 14:30 (受付9:30より)

※開催形式やプログラム内容が変更となる場合がございます。  
ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

#### I 部(10:00 - 12:30)

総会

##### ◆基調講演

講師 下田佳奈 先生

(聖路加国際大学ウイメンズヘルス・助産学 助教)

「大学卒業後のキャリア形成と看護職としての今後の展望」



##### ◆教育セミナー

講師 パク・スックチャ 先生

(アパショナータ, Inc.代表)

「組織と個人のパフォーマンス向上に役立つ  
アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)への対処法」



アンコンシャス・バイアスとは、「アンコンシャス(unconscious) = 無意識」と「バイアス(bias) = 偏見」の二つの単語から構成され、「自分自身が気づかずに持つ偏った見方・考え方」という意味で用いられています。聞き慣れない言葉のように思いますが、アンコンシャス・バイアスは日常にあふれていて、誰にでもあるものです。例えば、「シニアは頭が固い」「最近の若者は根性がない」という言葉や、「普通」そうだ、「たいてい」こうだ、「こうあるべき」だ、こうでないダメだ」という言葉を使ったりすることはありませんか?このような言葉はアンコンシャス・バイアスと言われ、その言葉自体は悪いものではありません。問題なのは、気づかないうちに、「決めつけ」たり、「押しつけ」たりしてしまうことなのです。アンコンシャス・バイアスがある、ということを意識し行動することで、誰もが受容され、活かされる風土が浸透し、よりよい職場や社会が形成されると言われています。この機会にぜひ一緒に考えてみませんか?ご参加お待ちしております。

#### II 部(12:45 - 14:30)

懇親会

参加費  
2,000円  
懇親会費込



第16回総会

お問合せ

大阪府立大学看護学系同窓会(白鳥会)事務局  
E-mail:shiratorikaikango@yahoo.co.jp

## 白鳥会看護研究助成

### ● 白鳥会看護研究助成のお知らせ

白鳥会では、臨床で研究に取り組んでいる方、これから始めようとしている方を応援しています。令和3年度分の看護研究助成の詳細については、決まり次第HPに掲載いたします。皆様のご応募をお待ちしております。

### ● 2019年度研究助成研究報告

社会医療法人 阪南医療福祉センター 阪南中央病院  
看護学研究科 博士後期課程 母子健康看護学分野

#### 菊川 佳世

私は昨年度、「つわり症状と妊娠前の食事内容・排便状態との関連」をテーマとした課題研究に取り組み、妊娠初期の女性を対象に、診療録調査と自記式質問紙調査を実施いたしました。その際に白鳥会看護研究助成を頂き、調査や論文作成に必要な物品を購入することができました。心より感謝申し上げます。学生として取り組む研究では金銭的な面が課題であったため、ご支援を頂けたことが大変有難かったです。

つわりは妊娠初期の一般的な症状ですが、症状が強まると女性のQOLを低下させ、本来担うはずである様々な役割行動を十分に取れなくなることが従来より指摘されていました。今回の調査によって、妊娠前からの食事内容の偏りや特定の食品摂取の有無が、妊娠中のつわり症状の程度と関連することが明らかとなりました。女性が妊娠初期をより快適に過ごすことができるよう、妊娠前から食生活を改善し、身体的環境を整える看護支援が重要ではないかと考えてます。今回明らかとなったことを踏まえ、博士後期課程でも引き続き研究に取り組み、母性看護への寄与ができればと思っています。この度は貴重なご支援を頂戴し、本当にありがとうございました。

医療法人警和会 大阪警察病院

#### 宇佐美景子

この度は博士前期課程在学中に、白鳥会研究助成を頂き、誠にありがとうございました。私は昨年度、「妊婦の血中ビタミンD濃度と栄養・生活の実態および臍帯血ビタミンD濃度との関連」というテーマで研究させて頂きました。妊娠28週以降の妊婦と新生児を対象に質問紙調査を行い、妊婦の血中ビタミンD濃度と妊婦の栄養・生活の実態および臍帯血ビタミンD濃度との関連を分析しました。その結果、初産婦、就労していない妊婦、妊娠中の体重増加量が多い妊婦は、日光を浴びる活動量が少ないと推察

されました。妊婦の血中ビタミンD濃度に日中の外出頻度と日焼け止めの塗布回数が影響しており、日光を浴びる生活支援の検討が必要であること、妊婦の血中ビタミンD濃度にはビタミンDと多価不飽和脂肪酸摂取量の充足、飽和脂肪酸の摂取過多が影響しており、栄養支援の検討も必要であると痛感しました。また、妊娠後期の血中ビタミンD濃度が臍帯血ビタミンD濃度に影響することが明らかとなり、研究助成による支援を糧に、妊娠中から新生児への影響を踏まえた栄養および生活に関する看護支援の重要性を伝えていきたいと考えています。この度は貴重なご支援を頂戴し、本当にありがとうございました。

2022年度開設予定

## 大学院案内

大阪公立大学大学院（仮称）看護学研究科 博士前期・後期課程 第1期生募集

大学院に関する情報や入試に関するお知らせは2021年5月頃より順次、大阪府立大学のホームページや同窓会を通じてご案内させていただきます。ぜひ、新大学大学院で卒業生の皆様を心よりお待ちしております。

大阪府立大学ホームページ <https://www.osakafu-u.ac.jp/>



## 〈大阪府立〉大学創基140周年記念事業と ホームカミングデーファイナルのご案内

2023年、大阪府立大学は創基140年を迎えます。1883年の獣医学講習所設立に始まり、大阪府立の3大学の融合を経て、公立大学として大阪の産業界の発展に寄与してきました。その確かな成長を支えていただいた皆さまへの感謝を胸に、新大学へとさらに成長していくため、140年の歴史の中で社会に与えてきたインパクトや成果を、学び・研究の系譜ごとに資料や証言でたどり、既存のデータベースコンテンツも含め“アーカイブズ”として集大成し、〈大阪府立〉大学の価値として継承・発展させる「アーカイブズ事業」を実施いたします。

卒業生の皆さまには、ぜひ学生時代のお写真やエピソードなどそれぞれの時代を記録した“情報”のご提供を今後お願いすることになるかと思えます。ぜひ学生時代に思いを馳せながら、事業へのご協力をお願い申し上げます。詳細が決まりましたら、改めて大学ホームページ、または同窓会を通じてご連絡させていただきます。

また今年も、ホームカミングデーも中止となりましたが、来年は皆が笑顔で集うことができることを祈念し、府大として最後となる“ホームカミングデーファイナル”を、10月31日（日）に中百舌鳥キャンパスにて企画しています。ぜひ同窓生をお誘いあわせの上ご参加いただき、思い出話に花を咲かせましょう。

今現在の大学の状況と記念事業について、辰巳砂学長からのメッセージ動画が配信されております。下記HPまたはQRコードより是非ご確認ください。今後とも卒業生の皆さまには大学へご支援賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

○ 基金ホームページ

<http://www.kikin.osakafu-u.ac.jp/>

○ 辰巳砂学長からのメッセージ

<https://www.youtube.com/watch?v=NwjFuSSHycl>



学長からのメッセージQRコード

### 高度な教育研究能力と実践力を身に着けるために

### 母性看護分野 で一緒に学びませんか！

大阪府立大学大学院看護学研究科母性看護学分野には修士論文コースがあります。長期履修制度（修業年限3～4年）を活用することで、仕事・育児・介護をしながらでも学ぶことができます。現在、博士前期課程には4名が、博士後期課程には1名が在籍し、自分達の関心のあるテーマで研究に取り組んでいます。大学院では、日本のみならず海外での母性看護の動向や、最新のエビデンス、臨床現場でのリーダーのあり方や考察、効果的な発表資料作成やプレゼンテーション方法について学ぶことができます。看護職者を対象に定期的に勉強会や抄読会などもオンラインやI-site などで開催しておりますので、是非ご参加ください。意欲のある方、母校の大学院で一緒に学びませんか！

([http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/gra/introduction/field\\_05/](http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/gra/introduction/field_05/))

## 白鳥会のみなさんへ

大阪府立大学 校友会会長 津戸 正広

白鳥会のみなさん、いかがお過ごしですか。全学同窓会である校友会は、いつも白鳥会から大きなご支援と元気をいただいています。ただ今年は同窓会にとっても大きな試練の年となっています。新型コロナウイルス感染症は、世界においても日本においても大きな危機ですが、同窓会活動にもさまざまな困難をもたらしています。校友会の評議員会・理事会は、「I-siteなんば」会場とオンライン参加者とが繋がってなんとか開催することができましたが、校友懇話会は開催できず、ホームカミングデーも今年度は中止となりました。それでもビジネスアイデア・コンテストは、参加者を制限したなかでもキャンパス会場とオンライン参加者を結んで、意欲的な学生たちが競い合います。

こういう状況であればこそ、同窓生と大学が一体となって在学生たちを支援し、同窓会活動を力強く

継続していく必要があります。新たな時代、困難な時代に適応した同窓会活動を展開したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

もう一つの大きな課題は、2大学の統合に伴って生じる新しい同窓会のあり方を見出すことです。新大学のスタートに向けて、両大学の同窓会関係者が集まって同窓会のあり方について意見交換をしています。新大学の全学同窓会が順調に動き出せば、単位同窓会も活動しやすくなります。単位同窓会は、全学同窓会とは異なった特有の課題を抱えています。課題解決に向けて粘り強く対応すれば将来像が見えてくると信じています。白鳥会のみなさんから同窓会のあり方についてご意見をいただければうれしいです。同窓会と大学とがともに協力し合って、困難な課題を解決していきましょう。ご支援よろしくお願いいたします。

## ニューノーマル

大阪府立大学東京同窓会 会長 山田 昭正

今年の同窓会活動は、コロナ禍のため交流と懇親を目的とする同窓会活動にとっては大変厳しい年になりました。東京同窓会でも浅井会長、真砂前会長、田中京子先生、杉本吉恵先生にご出席いただいた2月11日の総会・新年会はかろうじて開催出来たものの3月に入ってからのコロナ禍の影響は大きく、4月からは隔月開催している「中もず会」もリアルでの開催が難しくなりシスコ社のWebexを使ったオンライン開催にしました。

何せ初めての事で担当幹事は大変苦労しましたが、4月はセミナー方式、6月9月は数名のスピーカーに登壇頂くミーティング方式で開催し、関東在住の会員だけでなく九州、広島、大阪、名古屋から、また都立大学のOBも参加しました。そして10月には校友会のご協力でジャカルタ、シンガポールを結んで開催しました。海外での事業展開や海外ならではの苦労や面白さを直に聞く事が出来ました。また参加者同士の時を跨いでの部活での交流や、久しぶりの同期との再会等思わぬ事もあり、オンラインならではの同窓会の絆を感じる事が出来ました。

オンラインでの開催は気軽に何処からでも（自宅・海外）参加が出来、遠距離に居る相手とも気軽にコミュニケーションが取れるなどのメリットがあります。しかし研鑽と交流を目的とする「中もず会」にはリアル開催の要望も根強いものがあります。コロナ禍の動向にもよりますが来年は「リアル+オンライン」も一つの方向かと思っています。

「中もず会」の案内は校友会メルマガで紹介しています。白鳥会の方でもぜひ気楽にご自宅からご参加ください。お待ちしております。

令和3年の東京同窓会の総会・新年会はコロナ禍により中止しますが、今後も地域同窓会として東京地区の白鳥会活動に協力してゆきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

この会報が皆様に届くころにはワクチンの目途も立ち、コロナの先行きも見え、1年前と同じように思いっきり大声でしゃべったり笑ったり出来る様になっている事を望みます。

どうぞみな様気を付けてお過ごしください。

# 今できることから

大阪女子大学同窓会斐文会 理事長

米田 由岐子

みなさま 初めまして。斐文会理事長の米田です。

2020年はだれも予想していなかった大変な年になってしまいましたね。

私は定年退職後8年目の現在も公立中学校で非常勤講師をしています。前首相のいきなりの休校要請からこの間、行事の再編成やカリキュラムの改編などの業務ばかりか、休校のストレスが原因とみられる生徒指導事案の増加により、二重三重に厳しい現場の状況を目の当たりにしています。管理職を筆頭に毎日深夜まで対応に追われています。そんな中40人という密の教室で授業も進め、大半の真面目でおとなしい生徒たちにできるだけわかりやすく楽しい学習を、と教職員は頑張っています。でも疲労を重ね、心や体を痛めているものも少なくありません。それをよく理解し、教職員とともに前向きに行事に学習に学校全般で頑張ってくれている中学生がたくさんいます。その姿を糧に教職員も何とか明るく助け合って毎日を過ごしているのです。

自分の現場の話になりましたが、大学も今たいへんな状況ですね。対面の授業も、人と触れあう実習もままならず、ましてやクラブ活動を含めて大学生活そのものが成り立たない学生さんたちの失われた貴重な日々をどう補ってあげられるのか、など考えなければならぬことはたくさんあります。この災いを福となすために、今何をすべきなのでしょう。

さて、大阪女子大学は1924(大正13)年に大阪府女子専門学校として創立されました。そして1928(昭和3)年、同窓会「斐文会」が設立され2年前に90周年総会を盛大に開催したところです。女子専門学校(女専)の諸先輩の、年齢を感じさせない矍鑠としたお姿を拝見するにつけ、自分はまだまだだなど感じます。わが大学は帝塚山(私はこの学舎最後の卒業生です)から大仙へ移転し、その後2005年に大阪府立三大学が統合されました。2008年に最後の卒業生が巣立ち、名実ともに大阪女子大学の名前がなくなったときの先輩方のお気持ちを考えると、この斐文会への熱い思いも理解できます。市立大学との統合の後にも斐文会会員がいる限り、この同窓会をよりよい形で維持していくことが理事長を務める自分の責務だと、この文章を書きながら再確認しました。明日は何が起きるかわからなくても、今このときを大切に生きていきたいものです。

## 大阪府立大学看護学系同窓会(白鳥会) 令和元年度会計報告

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

前年度繰越	4,569,004円
収 入	1,334,248円
支 出	1,242,523円
収支差引額	91,725円
(令和2年度へ繰り越し)	4,660,729円

### 収入の部

科 目	金 額
令和元年度入学者名分 (@10,000×122人)	1,333,131
終身会費 上記以外 7名分 (@10,000×2人) (@20,000×5人)	
(※終身会費の振込み手数料(円)を除く)	
総会参加費	0
その他	1,117
合 計	1,334,248

### 支出の部

科 目	金 額
寄附金	300,000
研究助成金 (@50,000×2人)	100,864
総会費	0
業務委託費	553,037
会議費 (年2回実施)	31,920
消耗品費	0
人件費 (社会保険料含む)	190,346
その他 (支払手数料、式典・校友会等出席経費等)	66,356
合 計	1,242,523

以上の通り会計報告致します。

令和2年3月31日

大阪府立大学看護学系同窓会(白鳥会)

会 長 浅 井 克 仁

会 計 山 内 加 絵



勝 山 愛



長 野 弥 生



令和元年度同窓会会計の諸帳簿、書類などの監査の結果、適正に執行されていることを認めます。

大阪府立大学看護学系同窓会(白鳥会)

会計監査 富 田 亮 三



赤 崎 芙 美



## 事務局からのお知らせ

### ○白鳥会のホームページをご覧ください

皆様に同窓会の活動や母校の“今”を知っていただくために、随時、情報を発信しております。ぜひホームページをご覧ください（QRコード参照）。



（白鳥会HP QRコード）

### ○同窓会費（終身）未納の方へ

同窓会活動は、会員の納める会費で運営しています。未納の方には、年に1回この会報誌と一緒に納入のお願いの文書と振込用紙をお送りさせていただいております。ご協力よろしくお願いたします。

### ○住所や姓名変更のお願い

例年、会報誌や同窓会総会の案内を送付していますが、宛先不明の方が多くなっております。住所や姓を変更された方は、白鳥会HPから変更のご連絡をお願いいたします。母校の情報をお届けしていきたいと思っておりますので、ご協力お願いいたします。

### ○翔システムをご登録ください

大阪府立大学同窓会である校友会には“翔”というネットワークシステムがあり、様々な交流・情報交換が可能です。大阪府立大学校友会HP（<http://www.opucr.osakafu-u.ac.jp>）から登録が可能です。

## 2020年度 同窓会役員紹介

会 長：浅井克仁  
副 会 長：喜田雅彦・横山紗永・田中真一  
書 記：野中翔太・柱谷久美子・小泉亜紀子  
会 計：長野弥生・金山悠・赤崎芙美  
会 計 監 査：山内加絵・菊川佳世  
事 務 局 長：山口舞子  
事務局長補佐：真壁美香  
事 務 局：真砂隆太郎・浮舟裕介・安本理抄・宇田川直子・相原ひろみ・富田亮三・  
大泉綾亮・赤井悠・阿川勇太・廣地彩香・勝山愛・永吉紀子  
新たに就任した学年幹事  
学 類：浅井春香・安部遥・杉本日向・本間歩  
院 生：新井希理・森岡靖子

## 編集後記 小泉 亜紀子

\*\*\*\*\*

春の日差しが心地よい毎日でございますが、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症により、この一年で人々の生活様式は大きく変わりました。人々の命を守るために医療現場等で絶え間なく働いてくださっている卒業生の皆さんに心より感謝をいたします。最後になりますが、ご多用の中、会報誌にご寄稿くださいました皆様に心から御礼申し上げます。